御池沼沢ニュースレター

令和８年４月22日　Vol.146

今年度も御池沼沢植物群落の環境保全活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。４月の活動もみなさんのご協力により無事進めることができました。４月の活動を振り返ります。

＜４月の活動内容＞

〇西部指定地でのタケの伐採（ゾーンⅦ-1：タケ樹林ゾーン）

今月は、南北に広いゾーンⅦ-１のほぼ全域でタケの伐採を行いました。南側、メリノール学院通用門付近でマムシが出ました。伐採の際、万一発見しましたらむやみに近づかないよう、十分お気をつけください。

〇西部指定地湿地内での観察会（ゾーンⅢ：ミミカキグサ保護ゾーン）

令和８年３月11日の第２回天然記念物部会、４月17日の渡邊幹男先生の視察において裸地状態を保つよう指摘を受けたこともあり、ボランティアの皆さんと裸地状態を保つべく除草をしました。

谷内坊主の凹凸の境に、モウセンゴケやミミカキグサの生育がさらに広がる可能性があるため、特に凹部を裸地になるように除草しました。

＜ミクリガヤ播種実験の経過について＞

ミクリガヤの播種実験の経過について、渡邊先生から現状と今後の方針について話を伺いました。

- 種子からの芽生えを観察しているが、４月の時点ではまだ確認が難しい。６月頃になれば、確認できると予想される。
- 芽生えが確認できた後は、他の大型の草が覆いかぶさって日陰を作らないよう、ハサミで周辺の草を刈り取るなど、手作業での管理を行う。
- 最近の保全活動（かく乱）によって新たに出現した個体群は、既存の群落とは遺伝的に異なる。日本全国をみても面的に広がっており、御池沼沢にしかない価値がある。

＜観察・保全体験会の参加者を募集中です！＞

申し込みはこちらの二次元コードから！

日　時：５月16日（土）
　　9:00～11:00（受付は8:45から）
集合場所：大池中学校
内　容：西部指定地・東部指定地の植物・昆虫などの観察や食虫植物の保全体験会

５月の活動予定　午前９時30分から
５月　９日（土）　西部指定地
ゾーンⅠ：谷内坊主ゾーン　アキノウナギツカミ等の除草
５月20日（水）　東部指定地
ゾーンⅥ：観察路　ハルリンドウ・ミクリガヤ周辺除草

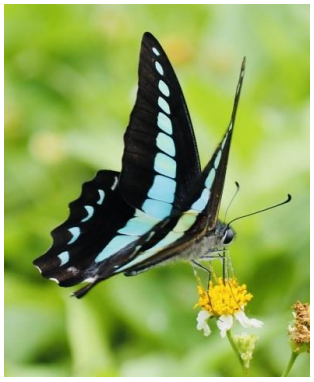
四日市市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部　文化課　TEL059-354-8238　bunka@city.yokkaichi.mie.jp

御池沼沢ニュースレター

令和８年５月22日　Vol.147

５月 16 日（土）に第１回自然観察・保全体験会をおこないました。最初は東部指定地のノハナショウブの開花状況を観察に行きましたが、咲いていませんでした。

西部指定地に移動して、モウセンゴケ・トウカイコモウセンゴケ・ヘビノボラズ・トキソウを観察しました。その後、観察橋付近で抑制植物のヨシを刈り取る保全体験をしました。観察会の講師である木村裕之さんは昆虫にも造詣が深く、西部指定地で外来種であるアオスジアゲハの産卵が見られると、くわしく解説してくれました。参加した小学生の子どもが懸命にメモをとっている姿は、運営する側として大変嬉しく感じました。



アオスジアゲハ



アオスジアゲハの卵



観察会の様子

今回のニュースレターを記している田中は、御池沼沢に関わり２年が過ぎました。３年目に入り知見を広げるため、同じ国指定天然記念物『深泥池生物群集』（京都市北区）を訪れました。氷河期から続く古い池で、独自の希少植物が群生しています。御池沼沢と違うのは深泥池では浮島があること、水生植物が分布していることです。ジュンサイやタヌキモがあります。御池沼沢もかつては大池なので水生植物が生育していました。ところで、この「深泥池」は古典文学の説教節『小栗判官』に登場することをご存じですか？『小栗判官』の中に深泥池の主である「大蛇」が美女に化けて小栗を誘惑するシーンがあります。実際、現地に立つと、「文学」と「自然」を満喫できますよ。



深泥池生物群集（京都市北区）



深泥池ではカキツバタが咲いていました（５月上旬）

６月の活動予定　午前９時 30 分から

６月 ３ 日(水)　西部指定地　タケ駆除、ミミカキグサ範囲抑制種除草
６月 10 日(水)　西部指定地　観察路を含めた中央観察橋付近除草
６月 20 日(土)　東部指定地　観察路除草、ハルリンドウ、ミクリガヤ周辺除草・観察・計測

６月 13 日(土)実施予定「自然観察・保全体験会」の参加者を６月８日(月)まで募集しています。上の二次元コードにて

四日市市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部　文化課　TEL059-354-8238　bunka@city.yokkaichi.mie.jp

御池沼沢ニュースレター

令和8年6月22日　Vol.148

価値を守りながら、親しまれる群落を目指して

～6月 自然観察会や出前講座が行われました～

6月13日、第2回の自然観察・保全体験会を開催しました。子どもたちを含めて20人を超える参加者を迎え、第1回とはまた違う様子を見せる植物や昆虫の様子に注目する様子が見られました。

『御池沼沢植物群落 保存活用計画』には、国指定の天然記念物として適切に保存しながら、市民に愛され、身近な憩いの場として親しまれるよう環境保全活動を実施したり、環境の整備を進めたりしていくことを目的としています。

4日には高校3年生の授業で、18日には出前講座を希望されたグループのみなさんが群落にお越しになりました。職員が講座に立ち会う中、ノハナショウブやトウカイコモウセンゴケ、ヤチヤナギやミミカキグサなどその日の植物の状況をよく目を向けることができました。



6/3の東部指定地の様子
ノハナショウブが見られます。

目を向ける中で特に感じたことは、「植物の様子は日によって違う。」ということです。



左の写真は18日の出前講座で参加者の方からいただいた西部指定地ゾーンⅢミミカキグサの写真です。今年度はじめての花を確認することができました。

昨年度に続いて13日の自然観察・保全体験会では参加者にアンペライやコイヌノハナヒゲの除去に取り組んでいただきましたが、その時には見つけることができなかった黄色い小さな花を確認することできました。貧栄養状態で日当たりを確保された裸地には、花を付けたミミカキグサだけではなく、小さな萌芽も確認できました。今後花をたくさんつけてくれること、ホザキノミミカキグサやムラサキミミカキグサが見られることを楽しみにしつつ、ゾーンⅢを離れました。





右の写真はゾーンⅤ湧水砂礫層露出ゾーンの様子です。日当たりをよくするため、環境保全ボランティアのみなさんに抑制種の除去をしていただきました。水路沿いの少し高台の所には真ん中の写真のようなトウカイコモウセンゴケを観察することができました。トウカイコモウセンゴケのそばにはカキランの花も観察できました。西部指定地の湿生植物・食虫植物の様子を楽しむことができました。

7月の活動予定

- 4日(土) 9時30分～タケ駆除、シラタマホシクサ周辺除草（西部指定地ゾーンⅠ、Ⅱ、Ⅶ-1）
- 昨年に引き続き市文化財保護審議会委員であり、里山湿地研究所の代表である富田啓介先生による『天然記念物 学習会～御池沼沢をどう守り、どう地域に活かすか～』を7月29日(水) 10時～農業センター会議室(赤水町971-1)で行います。7月21日(必着)までに、専用フォームにてお申込みください。

四日市市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部　文化課　TEL059-354-8238　bunka@city.yokkaichi.mie.jp

御池沼沢ニュースレター

令和８年７月30日　Vol.149

天然記念物 御池沼沢植物群落 保存活用計画が文化庁の認定を受けました

３月に行いました環境保全ボランティアのみなさんへの説明会でも少し説明をさせていただきましたが、多くのみなさまが楽しみながら保存・活用に取り組み、群落の本質的価値を将来にわたり保存することを意図して策定した「天然記念物 御池沼沢植物群落 保存活用計画」が、令和８年６月 19 日に文化庁による正式な認定の通知を受けました。

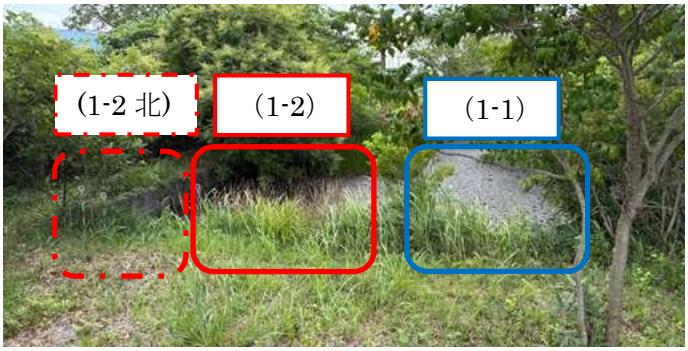
適切に保存・活用するために、群落の様子や変化に即して柔軟に対応していく必要があります。この計画が保存・活用にかかわるすべての方にとっての「道しるべ」の計画にしていければと考えています。「四日市の文化財」ホームページでも掲載をしております。ぜひご一読頂ければ幸いです。

https://www.city.yokkaichi.mie.jp/kyouiku/bunkazai/info/r080716.html

本計画の策定に際しご協力いただきました、四日市市文化財保護審議会の天然記念物担当委員をはじめ、地元三重地区の皆さま、文化庁、三重県教育委員会並びに関係のみなさまに厚く御礼申し上げます。

群落の本質的価値に関わる植物（保全種）を調査、解析を行っています。

～ミクリガヤ・ムラサキミミカキグサ・サギソウの様子～



保存活用計画に基づき、現在愛知教育大学の渡邊幹男先生にお世話になり、群落の本質的価値に関わる植物（保全種）の調査、解析を行っています。７月 20 日、27 日にかけてミクリガヤやムラサキミミカキグサ、サギソウなど群落の様子を調査していただき、報告を受けました。

まず東部指定地ゾーンⅢ　水域ゾーンにあるミクリガヤについてです。ミクリガヤ（1-2）種子と（1-1）種子は異なる遺伝子をもっているということは昨年度 VOL140 でも紹介しました。（1-2 北）では埋土種子から発芽させるため、昨年 12 月にかく乱実験を行いました。残念ながら（1-2 北）には、ミクリガヤの発芽の様子が見られていません。渡邊先生からは、年末か年明け除草し、水面際の部分をかく乱してみると埋土種子からミクリガヤが復活するのではないかとの報告を受けました。昨年度は、春に播種した種が流されてしまい発芽しなかった場所のミクリガヤですが、ミクリガヤの葉と思われる植物を確認することができました。種ができて人間の背丈ほどに成長するまでには３年ほどかかる。様子を見つめ続けていく必要があります。



西部指定地ゾーンⅤ　湧水砂礫層露出ゾーンの東側湿地部分にムラサキミミカキグサが生息、開花している様子を教えていただきました。モウセンゴケが多く植生している部分です。水の流れや溜まり方に応じて遺伝子解析をすると２つのタイプ（細長くなっている葉と丸い葉）があるようだという報告を受けました。レッドデータではムラサキミミカキグサは準絶滅危惧（NT）に指定されている食虫植物です。注意深く見守っていきたいと思います。

８月の活動予定　環境保全活動は計画していません。

９月16日(水)には、上記した愛知教育大学の渡邊幹男先生に群落に来ていただき、環境保全ボランティアのみなさまに群落の様子と保全の仕方を説明していただく予定です。前回天候不順により実施できませんでしたが、次回はぜひ実施できればと思っています。

四日市市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部　文化課　TEL059-354-8238　bunka@city.yokkaichi.mie.jp

御池沼沢ニュースレター

令和8年8月31日　Vol.150

令和８年度　御池沼沢植物群落天然記念物学習会を開催しました。

７月 29 日、「御池沼沢をどう守り、どう地域に活かすか」をテーマにした学習会を開催しました。当日は、里山湿地研究所代表で本市の文化財保護審議会委員でもある富田啓介氏を講師に迎え、お話を伺いました。今回のニュースレターでは、その内容をご紹介します。

講演では保全に向けた以下の仕組みが紹介されました。

① 水　：昔に比べ周囲の木が育ちすぎると雨水を吸い上げてしまい湿地の水が減るため、木を切ることが大切です。この木の発達は、薪や炭を使わなくなった現代の生活変化が原因ではないかと考えられています。

②日当たり：湿地の植物は強い太陽の光がないと育ちません。日陰を作る低木などを取り除くことが効果的とされています。

③水質：希少な植物は、本来「栄養が少なく酸性が強い」厳しい環境で他の雑草との競争を避けて生きています。しかし現在、湿地の酸性が弱まり、水に溶け込んでいる栄養や混じりけの量が増えている状況です。周辺の地質特性を考えると、近くの畑の肥料など「人の活動の影響」の可能性が高いとされています。

④外来種：靴の泥などから入る外来種は見つけ次第の駆除が大事です。なお、近年の昆虫（ハッチョウトンボ）の減少は、猛暑や冬の乾燥といった気候の影響ではないかと推測されています。

湿地の守り方は動画でも解説されています。YouTube「湧水湿地を未来へ残す方法」は、下記のリンクか、右の二次元コードからぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=GY2rCsoP_lQ

令和８年度第１回文化財保護審議会天然記念物部会を開催しました。

８月 18 日、令和８年度第１回文化財保護審議会天然記念物部会を開催しました。当日は、本市の文化財保護審議会委員である平山大輔委員、木村裕之委員、富田啓介委員にご出席いただき、東部指定地および西部指定地を巡りながら、日々の保全活動について意見や助言をいただきました。

西部指定地の「ゾーンⅢ（ミミカキグサゾーン）」では、表土の剥ぎ取りによって埋土種子の発芽を促す植生回復対策について協議が行われました。埋土種子の発芽状況や、表土剥ぎ取り後の植生回復を定量的・科学的に評価するため、12 月～1 月頃に「表土剥ぎ取り実験」を行うという方針は前回会議から維持しつつ、今回はその手法について具体的な助言をいただきました。効果を正しく比較するため「剥ぎ取る区（処理区）」と「剥ぎ取らない区（対照区）」をそれぞれ設けること、またデータのばらつきを考慮して、それぞれ最低３カ所（可能であれば各５カ所）のプロットを設置することが望ましいとのご意見をいただきました。



９月の活動予定

９月 16 日（水）　東部指定地・西部指定地

愛知教育大学の渡邊幹男先生に群落にお越しいただき、環境保全ボランティアのみなさまに群落の様子と保全の仕方を説明していただく予定です。

９月 19 日（土）　第３回御池沼沢植物群落観察・自然体験会

８：45 受付開始　９：00～11:00　集合場所：大池中学校

ミズギボウシなどの植物や昆虫の観察と食虫植物の保全体験をします。ぜひご参加ください。

９月 14 日（月）までに、御池沼沢植物群落 HP の応募フォーム（右）からご応募ください。

四日市市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部　文化課　TEL059-354-8238　bunka@city.yokkaichi.mie.jp

御池沼沢ニュースレター

令和８年９月30日　Vol.151

自然観察・保全体験会 開催

９月19日（土）、御池沼沢植物群落 西部指定地・東部指定地において自然観察・保全体験会を実施しました。

植物・昆虫好きな子どもたちを含めた15名の参加者とともに、群落の植生を明らかにするための貴重な機会となりました。

参加者が講師の先生の説明を聞いたり質問をしたりして、実りのある自然観察・保全体験活動を進めることができました。





環境保全ボランティアのみなさんへの保全方法の説明

９月16日（水）、愛知教育大学の渡邊 幹男特別教授を講師に迎え、環境保全ボランティアを対象とした健全な群落への回復と環境保全を図るための現地研修を実施しました。

【主な指導内容と今後の対応】

・東部指定地（ミクリガヤ）
今後も継続した環境整備を行ったり、自生するミクリガヤの面積を拡大していくことができるか様子を見守る。
今後、渡邊先生の立ち会いのもとで除草と水間際のかく乱を実施する予定である。

・西部指定地（ムラサキミミカキグサ）
来年5～6月には再びムラサキミミカキグサについて（葉の形が卵型か尖頭型か）２タイプが発芽してくる。ムラサキミミカキグサの植生状況については、目印などでマーキングするなど植生状況を調査すると価値がある。

・西部指定地（サギソウ）
園芸種と思われるサギソウは即刻除去するというのではなく、遺伝子解析をした上で多様性のない状況であり、園芸種と確定した時点で対応を検討する。

10月の活動予定　午前９時30分～
10月10日(土) 西部指定地 抑制植物駆除
10月21日(水) 東部指定地 抑制植物駆除

四日市市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ部　文化課　TEL059-354-8238　bunka@city.yokkaichi.mie.jp